

## “サローネ・マスター”が選ぶ 今気になる椅子とは？

毎年ミラノ・サローネを訪れ、  
星の数ほどの椅子をチェックする  
デザインのプロ3人に、今いちばん気になる  
椅子を教えてくださいました。



「ジャスパー・モリソンと、今注目の若手日本人デザイナー熊野亘がデザインを手がけた一脚がついに日本上陸。フィンランドのニカリ社の毎月新作を一脚ずつ発表するプロジェクトで12月に発表されたから『ディセンバー』という名のこの椅子は、どんな空間にもなじみやすく、ラウンジチェアとしての座り心地もいいですね」

### Nikari December

>>> 青木昭夫 クリエイティブディレクター

「ディセンバー」  
(W54×D55×H66×SH35cm)  
10万5,000円  
(スツールは別売り8万4,000円) /  
アクタス



### Roche Bobois Traveler

>>> 土田貴宏 デザインジャーナリスト

「トラヴェラー」  
(W121×D126×H116cm)  
<http://www.roche-boboiss.com/>

「この椅子のコンセプトは名前のとおり“旅”。疲れた体を預けるのにふさわしいサイズやプロポーションと、クラフト感のある構造による身軽な印象のバランスが独特だなと感心しています。欧米以外にも多くの国で活動している、スティーブ・パークスらしいこなれた折衷感もさすが。自宅にいなながら旅を感じられそうです」

### Paola Lenti Portofino

>>> 森山善之 建築設計事務所パケラッタ代表

「ポルトフィーノ」  
(W59×D52×H79×SH46cm)  
57万円～ / アルフレックスジャパン



「パオラ レンティのアウトドア家具はクオリティが高く、明るく楽しくなるような色が選べるので自分のプロジェクトでもよく使います。この『ポルトフィーノ』は、ミラノ・サローネで見たのですが、クオリティが高いのにカジュアル。持ち運びも簡単にできて、とてもいいなって思いました。色のバリエーションも豊富です」

Ad Core Divise

## American Georgian Chair

エーディコア・ディバイズの「アメリカンジョージアンチェア」は丈夫なホホワイトオーク材をフレームに使用。スリッパカバーも用意されていて、豊かな変化のあるインテリアシーンを楽しめる。「アメリカンジョージアンチェア」(W60×D59.4×H90×SH45cm) 8万2,000円～ / エーディコア・ディバイズ



## サローネよりもひと足お先に！ 2015年発表の注目チェア

4月のミラノ・サローネを待たずして現れた今年発表されたばかりの新作椅子の中から木のフレームが特徴的な3脚をピックアップ。ニューフェイスをチェックしよう！



### Matsuso T Wafer

クラウン・コイヴィスト・ルーネがデザインしたMATSUSO Tの「ウエファー」はその名のとおりウエハースのような縞模様。広島府の府中家具職人の高い技術で、2種類の木が滑らかに組み合わされている。「ウエファー」(W48×D48×H80×SH45cm) 今秋発売予定 / MATSUSO T



### Gervasoni Brick 307

ジェルバゾーニの「ブリック」シリーズにロッキングチェアが登場！パオラ・ナヴォーネは着脱可能なファブリックカバーのシートに、アメリカンウォールナット製のシックな脚を採用した。脚の色は5色展開。「ブリック 307」(W73×D112×H87×SH54cm) 39万2,000円～ / ジェルバゾーニトーキョー



パオラ レンティという美しい選択肢

# 家具の未来を照らす カラフルな戦略

鮮やかな色調と独自開発した素材使いで知られるパオラ レンティ。  
世界中が注目する同ブランドの神髄に触れるべく、メダの本社を訪ねた。

photos : MASSIMILIANO BONATTI text : MICHIO YAMADA



手前のフランチェスコ・ロタのブルーのアウトドアチェア「AMI」。隣のバラソル「MOGANBO」とオットマン「TOTON」はパオラ・レンティのデザイン。その奥のグリーンのソファ「ORLANDO」はCKR、オットマン「NIDO」はバトリシア・ウルキオラが手がけている。\*日本未発表の商品もあります。/以上アルフレックスジャパン

## アウトドア家具の新形態を 独自の素材開発で実現

ミラノ郊外ブリアンツァのメダ市には、世界のインテリアアシーンを牽引するメーカーが集中している。この地で1994年に創業したパオラ レンティ社は、美しく独創的な家具とラグを切り札に唯一無二の世界観をアピール。瞬く間に数々の賞に輝くトップ企業へと成長した。グラフィックデザイナー出身のパオラ・レンティが創造するコレクションは、優れた耐久性と機能性を併せもち、豊富なカラーバリエーションを纏ったエッセンシャルな造形が特徴だ。

メダのパオラ レンティ本社を訪れると、敷地内の広大なガーデンで鮮やかなソファが迎えてくれた。「フェルトでリボンを編んでいるときに、これを家具に生かせないかしら？」とひらめいたの。そこから気の遠くなるようなリサーチと試作を繰り返して、画期的な耐久性を備えた素材を生み出すことに成功しました」と彼女は創業時を振り返る。

耐候性に優れた登山用のロープを参考に、強度に優れ紫外線や塩素、海水によって変色せず、伸縮もしない家具用の「ロープ」を独自に開発。同社の家具はこれらの素材を用いて、ハンドメイドで仕上げられる。もちろん環境保護にも配慮し、開発の際にはリサイクル素材などを率先して使用。木材を選択する際も伐採地域のチェックを怠ることはない。

独自の素材開発、ハンドメイドの技に加え、鮮やかな色使いは同ブランドの重要なアイデンティティだ。このことについて彼女は「私がグラ



## 緑に包まれた本社、そしてショールーム

1\_組み合わせ自由なパネル型のランドスケープは、レナート・J・モルガンティデザインの「PAVILION」。アウトドアアイテムのきめ細かな展開が同社の強み。奥のソファはフランチェスコ・ロタの「FLOAT」。マスタードイエローのオットマン「SHELL」はパオラ・レンティのデザイン。2\_ランタン「AGADIR」の工程。グルーガンで巧みに操りながらロープ素材を型に巻き付けて製作する。作業場のすぐ向こうには緑が広がる恵まれた環境だ。3\_ショールームの白いフロアに映えるモスグリーンのソファとオットマンも「SMILE」。発色のいいピンク×グリーンのような、大胆なカラーコンビネーションが新鮮。\*日本未発表の商品もあります。/以上アルフレックスジャパン



## 随所にカラフルな色が躍るファクトリー

4\_オットマン「TOTON」の製作現場。すべてハンドメイドだ。5\_微妙な階調も網羅した色糸の数々。蛍光色からダークトーンまでをカバーするカラーレンジの幅広さに加え、独自の織り加工を施したテキスタイルもラインナップ。張り地の豊富なバリエーションはパオラ・レンティの強力なアドバンテージといえる。6\_「SAND」に座るパオラ・レンティ。デザインはフランチェスコ・ロタ。ミニマルながらも温かみのあるデザインを得意とする彼は、スイスのアートセンターカレッジオブデザインの出身。パオラ・レンティではシューズロング、ソファ、テーブル、シェルフなどさまざまなアイテムを手がけ、好評を博している。\*日本未発表の商品もあります。/以上アルフレックスジャパン



## Paola Lenti

パオラ・レンティ

イタリア・アレクサンドリア出身。ミラノ工科大学卒業後、グラフィックデザイナーとして活躍し、1994年にパオラ・レンティ社を設立。妹のアンナと共に同社を営み、アートディレクターを務めている。

## 恵比寿のショールームで日本初の新製品展示会がスタート!

パオラ・レンティ単独としては日本初となる展示会がアルフレックスショップ東京で開催中。2014年のミラノ・サローネで発表されたバラソル、フォルディングチェア、また日本初発表となる製品に触れて、同ブランドの世界観を体感する絶好の機会だ。

アルフレックスショップ東京

●東京都渋谷区広尾1-1-40

恵比寿プライムスクエア1F ☎03-3486-8899

🕒〜3/10(火) 🕒11:00〜19:00

フィックデザインの仕事をしていたことが大きいでしょう。ほとんどの家具が、ベーシックな色しか選べないことに常々疑問を感じていました。私たちが用意した選択肢のなかには、素材開発の段階でさまざまな色を組み合わせ、一見単色に見えても角度によって変化する複雑な色もあります。自然界には無数の色が存在するし、花や植物は色で私たちを幸せにしてくれますよね」と語る。

2001年にシューズロング「リネア」でコンパッソ・ドロ・オノラブル・メンシオンズ賞を、'07年にはラグ「クローシェ」でエル・デコインターナショナルデザインアワードを、今年1月の「ケルン国際家具見本市」ではバラソル「ビストロ」でインテリア・イノベーション・アワードを受賞。その存在感は世界中のデザイン関係者が認めるところだ。独自の家具作りで着実に歩みを進めるパオラ・レンティ。その進路はさらなる高みを目指している。